

<全体分析>

試験時間2科目で120分

解答形式

問形式、空欄補充、論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問数が5題から4題になった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	電気	物理	オームの法則の導出。ホール効果。典型的な出題なので確実に得点したい。	やや易
2	問形式	力学	物理	剛体のつり合い、万有引力の法則。前半の剛体のつり合いの問題は確実に得点したい。後半の万有引力の問題は重力加速度を用いて解答することに注意しよう。	やや易
3	問形式	熱力学	物理	物体の比熱、潜熱、気体の熱力学。数値の計算が大変であったろう。	標準
4	空所補充	原子、波動	物理	半減期、ブラッグ反射、波の式、波の干渉条件。前半の原子分野は基本事項の確認なので確実に知っておきたい。後半の波の式はやや難しい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

数値計算が多数出題されたので60分で解くには苦戦するかもしれない。
 学習対策としては、すべての分野を万遍なく仕上げるのが大事になる。そのためにも基本的な問題集をしっかり仕上げたい。
 今年も数値を計算する問題が多数出題されたので計算力をしっかりつけておくことが求められる。ただし、内容はよく見かける設定の問題が多いので、慌てずに落ち着いて対応したい。
 ここ数年は出題される問題の難易度が安定している。よってこのレベルの問題で8割の正解を目標に学習したい。